

芸術文化による共生社会の実現に向けた“新たなコミュニケーションのあり方”を創造する、9日間。

## 「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」を初開催！

－7月29日（土）～8月6日（日）東京都美術館にて実施－



この度、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京（以下、アーツカウンシル東京）は、東京2020パブリックのレガシーとして、「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」を、2023年7月29日（土）～8月6日（日）の期間で初開催いたします。

**芸術文化による共生社会の実現に向けた“新たなコミュニケーションのあり方”を創造する、9日間。**

**初開催となる「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」について**

「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」は、昨年度行われた国際カンファレンス「だれもが文化でつながる国際会議」で得た知見・ネットワークを国内文化施設や教育機関等へ広めるとともに、共生社会の実現に向けた取組を推進することを目的として開催いたします。

今年は「アクセシビリティと共創」をテーマとし、国内におけるアクセシビリティに関する認識や価値観を再考するきっかけづくり、芸術文化による共生社会の実現に向けた“新たなコミュニケーションのあり方”を創造する場として、全8つのトークセッションと、レクチャー＆ワークショップ、展示、パフォーマンス×ラボを実施します。

国内外でアクセシビリティに携わる各分野のスペシャリストの知見や作品を通じた問いかけから、美術館、博物館、劇場やコンサートホール等といった文化施設の担い手が抱える、“情報保障”の課題、そして“誰もが楽しめる鑑賞体験”について向き合います。

またそれだけでなく、2025年に東京開催となる「デフリンピック」を見据え、聴覚障害のある方を対象とした情報保障やろうの表現の理解を深めるための“気づき”となるプログラムもご紹介します。

ぜひこの機会に、芸術文化による共生社会の実現に向けたきっかけづくりとなるセッションにご参加ください。

### 開催概要

イベント名称 : 「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」  
 開催期間 : 2023年7月29日（土）～8月6日（日）  
 開催場所 : 東京都美術館  
                   講堂：トークセッション  
                   ロビー階 第4公募展示室：レクチャー＆ワークショップ、展示、パフォーマンス×ラボ  
 主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
 参加費 : 無料（一部要事前申込）  
 「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」特設サイト：<https://www.creativewell-session.jp/>

<来場に関するお問合わせ：サマーセッション2023事務局>

TEL：080-4827-1239 / E-mail：hello@creativewell-session.jp

※電話窓口：平日及び会期中の土日（7/29・30、8/5・6） 10:00～18:00

※鑑賞サポートが必要でPeatixからお申し込みができない方は、事務局までお電話かメールでご連絡ください。

※会場への直接のお問合わせはご遠慮ください。

## 芸術文化をすべての人へ

### 「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」開催に向けて

<開催背景と企画主旨>

東京都とアートカウンシル東京は、2021年よりクリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー (<https://creativewell.rekibun.or.jp/>) プロジェクトを推進。今夏は、「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」を開催します。

昨年は、世界5カ国・地域から、100組以上の専門家、団体、クリエイターが東京に集結し、アジア初となる国際カンファレンス「だれもが文化でつながる国際会議：Creative Well-Being Tokyo2022」を開催し、延べ5,000名を超える方々にご参加いただきました。

会議を経た今、文化施設におけるアクセシビリティの向上が人々の芸術体験への参加を後押しする可能性に期待が高まっています。だれもが芸術文化を楽しめるようになるには、だれもがそのことについて学び、対話し、交流する場が必要です。

トークセッションでは、みなさまとともに考えたい8つのテーマを選出しました。

登壇者の方々は、様々な分野からの知見を持ち寄り、会場のみなさまとともに考えていきます。

障害当事者としてご登壇いただく方も多数います。

障害のある方の声に耳を傾けながら、共創するために、まずは学びの場をともにしたいと考えています。

また、レクチャー&ワークショップ、展示、パフォーマンス×ラボという3つの体験による学びの場も企画しました。

トークセッションでの知見を、ぜひこの学びの場で深めてください。

みなさまにとって、新しい気づきが本セッションにあることを期待し、ご参加をお待ちしております。



※「だれもが文化でつながる国際会議：Creative Well-being Tokyo2022」の様子

## クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーについて

乳幼児から高齢者まで、障害のある人もない人も、そして海外にルーツをもつ人たちも、だれもが文化施設やアートプログラムと出会い、参加しやすいように芸術文化へのアクセシビリティ向上に取り組むプロジェクトです。

美術館で展覧会を見たり、劇場で演劇を鑑賞したり、ワークショップで創作をしたり…。

そのような体験をだれもができる環境を整え、芸術文化を通した「ウェルビーイング」（心や生活の豊かさ）のあり方を東京から発信していきます。

<主な取組>

- 環境を整える : 都立文化施設や文化事業を中心に、障害の有無や年齢などに関わらず、あらゆる人が芸術文化に出会い、体験し、参画することができるような環境をつくります。
- プログラムを開発する : 国内外の文化施設、NPO、研究機関などと連携し、社会的な課題と向き合いながら、さまざまな立場の人に必要とされるプログラムの開発に取り組みます。
- ネットワークを築く : アクセシビリティに関する取組を展開する文化施設や担い手などのネットワークを築き、情報を共有しながらともにアクセシビリティの向上を推進します。

アクセシビリティと共創についての知見を深め、体験を通じて自分ごととして学ぶ

## トークセッション

アクセシビリティに関わる各分野の専門家やアーティストをお招きし、文化施設での取組や最先端のテクノロジーの活用等を含む包括的なテーマを議論する、全8セッション。期間は7月29日（土）から7月31日（月）、要事前申込。

session 1 7/29(土) 13:15-15:00

### オープニング・主催者あいさつ/ 『文化的『社会的処方』と共創の場』

稲庭 彩和子(国立アートリサーチセンター 主任研究員)  
中野 敦之(神奈川県民ホール 館長付 事業課)  
伊藤 達矢(東京藝術大学 特任教授)  
モデレーター:森 司(アーツカウンシル東京 事業調整課長)

session 2 7/29(土) 15:30-17:00

### 『ろう者による表現』

根本 和徳(めとてラボ)  
西 雄也(デフアート研究者)  
モデレーター:菅野 奈津美  
(アーティスト/教員 Re; Signing Project代表)

7/30(日) 10:00-11:00

### 映画上映 『手でふれてみる世界』

60分/鑑賞無料

session 3 7/30(日) 11:15-12:45

### 『ふれることから出会う世界』

岡野 晃子(『手でふれてみる世界』監督、ヴァンジ彫刻庭園美術館 副館長)  
半田 こづえ(明治学院大学 非常勤講師)  
モデレーター:茂木 一司(跡見学園女子大学 教授)

session 4 7/30(日) 13:30-15:00

### 『来館しやすい美術館』

竹内 利夫(徳島県立近代美術館 学芸員)  
亀井 幸子(徳島県立近代美術館 主席)  
森山 純子(水戸芸術館現代美術センター 教育プログラムコーディネーター)  
モデレーター:大内 郁(東京都渋谷公園通りギャラリー 文化共生課長)

session 5 7/30(日) 15:30-17:00

### 『劇場・ホールにおける共創的体験』

近藤 良平(彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督)  
梶 奈生子(東京文化会館 事業企画課長)  
モデレーター:中村 美亜(九州大学大学院芸術工学研究院 准教授)

session 6 7/31(月) 10:00-11:30

### 『デフリンピックに向けて』

大杉 豊(筑波技術大学 教授)  
清水 言一(喜多能楽堂 館長)  
モデレーター:江副 悟史(俳優)

session 7 7/31(月) 12:30-14:00

### 『情報保障とテクノロジー』

中野 夏海(日本科学未来館 科学コミュニケーター)  
設楽 明寿(筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科)  
モデレーター:阿部 一直(東京工芸大学 教授)

session 8 7/31(月) 14:30-16:00

### 『共創するとは何か ～文化的実践を通じて～』

西尾 美也(東京藝術大学 准教授)  
伊藤 亜紗(東京工業大学 教授)  
モデレーター:森 司(アーツカウンシル東京 事業調整課長)

## <見どころ>

### session1『文化的『社会的処方』と共創の場』7/29(土) 13:15-15:00

#### <セッションの流れ>

オープニング主催者挨拶  
[事例紹介(20分)] 稲庭 彩和子  
[事例紹介(20分)] 中野 敦之  
[事例紹介(20分)] 伊藤 達矢  
[ラウンドテーブル] 上記、登壇者  
[モデレーター] 森 司

#### <内容>

昨年度の「国際会議」で議論された共生社会における芸術文化活動を活用した取組について、イギリスでの実践を参照しつつ、日本国内での国や大学での共生社会の実現に向けたグローバルな事例を交えて、今後の展望について議論いたします。

#### <登壇者>



稲庭 彩和子  
国立アートリサーチ  
センター 主任研究員



中野 敦之  
神奈川県民ホール  
館長付 事業課



伊藤 達矢  
東京藝術大学 特任  
教授。『共生社会』を  
つくるアートコミュニケー  
ション共創拠点』のプロ  
ジェクトリーダー



森 司  
アーツカウンシル東京  
事業調整課長

### 映画上映『手でふれてみる世界』7/30(日) 10:00-11:00

### Session3『ふれることから出会う世界』7/30(日) 11:15-12:45

#### <セッションの流れ>

[事例紹介(20分)] 岡野 晃子  
[事例紹介(20分)] 半田 こづえ  
[ラウンドテーブル] 上記、登壇者  
[モデレーター] 茂木 一司

#### <内容>

視覚障害のある方の芸術文化の楽しみ方の幅を広げる取組と可能性について議論。  
『手でみる』イタリアでの実践やインクルーシブ教育の事例を通して、知覚の多様性や、視覚障害のある方の世界観やコミュニケーションについて語り合います。

#### <登壇者>



岡野 晃子  
ヴァンジ彫刻庭園  
美術館 副館長  
ドキュメンタリー映画  
『手でふれてみる世界』監督



半田 こづえ  
明治学院大学  
非常勤講師



茂木 一司  
跡見学園女子大学  
教授。『視覚障害の  
ためのインクルーシブ  
アート学習 基礎理論  
と教材開発』編著



## session8「共創するとは何か～文化的実践を通して～」7/31（月）14:30-16:00

### <セッションの流れ>

[事例紹介 (20分)] 西尾 美也  
[事例紹介 (20分)] 伊藤 亜紗  
[ラウンドテーブル] 上記、登壇者  
[モデレーター] 森 司

### <内容>

地域の高齢者と共同制作の実践を重ねるアーティストの西尾氏と、様々な障害や世代や属性の人と協働と対話を重ねてきた研究者の伊藤氏による対談を通して「共創」することの可能性を探るセッション。「共に創る」ことの本質と可能性に迫り、共生社会のあり方の議論、次回の国際会議につないでいきます。

### <登壇者>



西尾 美也

東京藝術大学 准教授。  
大阪西成区の高齢者と  
共同制作を実践する  
プロジェクトを実践している



伊藤 亜紗

東京工業大学 教授。専門は、美学、  
現代アート。障害を  
通して、人間の身体  
のあり方を研究



森 司

アーツカウンシル東京  
事業調整課長

## レクチャー&ワークショップ/展示/パフォーマンス×ラボ

### ◆レクチャー&ワークショップ

アクセシビリティの向上や共生社会の実現に向けて、今日の社会に必要な情報保障や多様な他者とのコミュニケーションの形をともに考え、体験する場として、レクチャー&ワークショップを行います。期間は8月1日（火）から8月6日（日）、要事前申込。

テーマ 1 8/1(火) 13:30-15:30

#### 視覚身体言語とコミュニケーション

講師：和田 夏実（めとてラボ）

テーマ 2 8/2(水) 13:30-15:30

#### やさしい日本語

講師：金田 智子（学習院大学 教授）、稲葉 未希（公益財団法人東京都つながり創生財団）

テーマ 3 8/3(木) 13:30-15:30

#### 触察

講師：大内 進（星美学園短期大学日伊総合研究所 客員研究員）

テーマ 4 8/4(金) 13:30-16:00

#### 視覚障害と鑑賞プログラム

講師：白鳥 建二（全盲の美術鑑賞者）

テーマ 5 8/5(土) 13:00-16:00

#### 車いすというメディウム

講師：檜皮 一彦（アーティスト）

テーマ 6 8/6(日) 13:30-15:30

#### ろう文化

講師：大杉 豊（筑波技術大学 教授）

### <見どころ>

#### テーマ：「視覚身体言語とコミュニケーション」/ 講師：和田 夏実

和田 夏実さんを中心に「めとてラボ」が実施する、「つたえる、うけとる、つたえあう」ことを考えるワークショップ。手話と音声言語のあいだで言葉を伝える手話通訳者と共に考えていきます。

#### <講師プロフィール>

ろう者の両親のもとで手話を第一言語として育ち、視覚身体言語の研究、様々な身体性の方々との協働から感覚がもつメディアの可能性について模索している。触手話をもとにした繋がるコミュニケーションゲーム“LINKAGE”、“タッチコースター”など、ことばと感覚の翻訳方法を探るゲームやプロジェクトを展開。2016年手話通訳士取得。《an image of...》《visual creole》 "traNslationNs - Understanding Misunderstanding", 21\_21 DESIGN SIGHT, 2020

#### テーマ：「触察」/ 講師：大内 進

大内 進さんによる触察に関するレクチャーとワークショップ。私たちの身の回りにある様々なモノから、3D制作された絵画や、触知図などを触りながら、触察することへの理解を体感と共に理解を深めていきます。

#### <講師プロフィール>

星美学園短期大学 日伊総合研究所 客員研究員。独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 名誉所員。専門は、視覚障害教育、イタリアのインクルーシブ教育等。著書に『視覚障害のためのインクルーシブアート学習——基礎理論と教材開発』（編著、ジアーズ教育新社、2021年）他多数。

## ◆展示

現代美術家、ろう者アーティストの作品展示や最先端のテクノロジーを用いた情報保障の取組を発表します。デフリンピックに向けたろう者や聴覚障害への理解へとつながる作品もございますので、ご注目ください。期間は、7月29日（土）から8月6日（日）9:30～17:30まで。（最終受付は17:00まで）

## <見どころ>

### 「身体と多様性と表現」/ アーティスト：檜皮 一彦



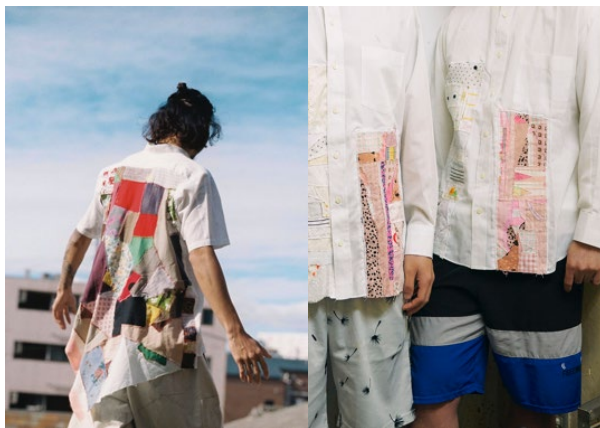
HIWADROME\_typeΔ

60数台の車椅子を用いた多様な知覚や身体感覚、異なる他者との共有やコミュニケーションについて問いを投げかけます。属性や背景が異なる世界と出会い、アクセシビリティについて多角的な視点を獲得する契機をつくりだします。

#### <アーティストプロフィール>

「HIWADROME」をファーストラインに、ワークショップや旅を通じたモビリティやアクセシビリティのリーサーチプロジェクトである「walkingpractice」、ペインティング作品を中心とした「DRAWING EXPERIMENT」、衣服を用いてボディと社会の関係を考察する「HIWADROModE by Kazuhiko Hiwa」などのラインを展開している。

### 「共創する活動」/ アーティスト：西尾 美也



参考写真：NISHINARI YOSHIOのプロジェクトより  
(c) Photo by Keisuke Sakakura

元タンス店を改装して大阪市西成区で展開するkioku手芸館「たんす」の活動を紹介。美術家・西尾美也と「たんす」に通う女性（おばちゃん）たちとの共同で立ち上げたファッションブランドの店舗風景を再現し、独自の手法を元に創作された洋服を展示。店長としておばちゃんたちが駆けつける日もあります。

#### <アーティストプロフィール>

東京藝術大学 准教授。  
大阪西成区の高齢者と共同制作を実践する「NISHINARI YOSHIO」等、国内各地でアートプロジェクトを実践している。

## 「情報保障とデバイス」

### QDレーザを体験した盲学校の高校生と写真家の池田晶紀による作品の展示

芸術文化の鑑賞や体験のサポートにつながる先端テクノロジーやデバイスを通して、今日の情報保障のあり方を考える展示。さらにアーティストとの表現手法も重ね合わせることで、技術と情報保障への創造的な視点を提供いたします。

## 「ろう者と表現」

### 国内のろう者アーティストによる作品展示

絵画、漫画、写真等の表現、作品を通して、ろう者の知覚、世界観、コミュニケーション等、ろう教育についての理解を深めます。  
企画協力：大杉 豊、菅野 奈津美、西 雄也

## ◆パフォーマンス×ラボ

### 芸術作品を伝えるための情報保障について考える、公開研究ラボ

多言語や、映像・パフォーマンス等の複数の表現手法が含まれる作品の情報保障について、障害当事者も交えて実験的に取り組むことで、多文化共生における今後の新たな実践に向けて知見を深めます。期間は、8月1日（火）から8月6日（日）10:00-16:00。

音声や文字による情報保障を加える「めとてラボ」チームとジョイス・ラムがワークショップを行い、ジョイスのレクチャー・パフォーマンス作品《家族に関する考察のトリロジー／On Family》の伝え方を探求します。最終日（8/6）には、アクセシビリティに対応した状態でのレクチャー・パフォーマンスを上映します。

#### <アーティストプロフィール>

香港生まれ。

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）日本語・経済学科卒業。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。伊東建築塾のスタッフを経て、現在はグーテンベルクオーケストラのディレクターとして出版物からコンサルティングまで広義での編集に携わっている。



### ○取材に関するお問い合わせ

だれもが文化でつながるサマーセッション2023 PR事務局

広報担当：金

TEL：080-3559-6924

E-mail：pr@creativewell-session.jp